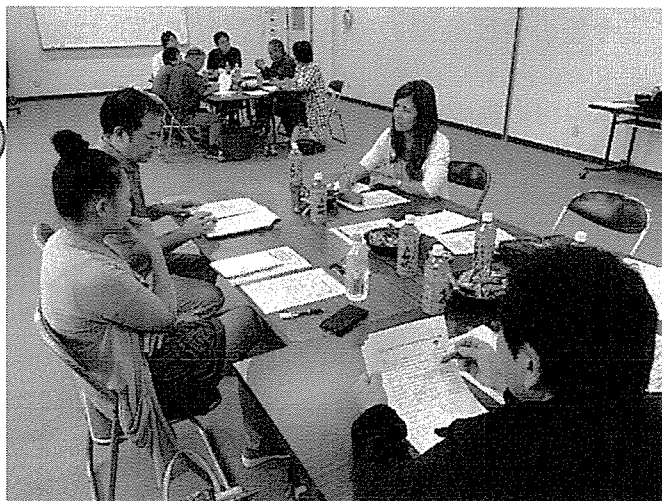


ゆんたくカフェ

2018年10月13日(土)
10:00~12:00
ちむぐる館にて



●1班グループメンバー：前城課長、新垣奈々さん、山本隆さん、松田かなえさん、桃原徹貞

□住民会議の振り返り

→とても勉強になった。知る機会があつてよかったと思う。特に障害者雇用については身近な地域で共生社会を実践する企業があるということにうれしく思った。そんな企業がもっと増えるといいなと感じた。共生社会について意識しているつもりだが、まだまだよくわかっていないことも多いことに気づかされた。

→わかっているようで、わかっていなかったことに気づかされた。特に民生委員の活動や自治会の課題など、気づかされることも多かったと思う。
民生委員の地域での活動や自治会の活動、課題など実はつながりがあることも気づかされた。

→色々な発見があり、とても大切な場・機会だと思う。是非、毎年開催してほしいと思う

→地域の課題や問題を気にすることなく暮らしている方も多いと思う。今回のように何が課題なのか考えるいい機会だと思う。是非参加してほしい、話を聞いてほしい方々にも呼びかけして参加してもらいたい、一緒に考えてもらいたいと思った。

→第1次計画で実施した住民会議では色々な意見はでてきたがどこか他人事のように感じた。今回は学びを主な目的にしていたため対話形式での意見のやりとりは少なかったが、アンケート回答に何を感じたとか、自分ならどうしたいなどの意見もあり、気づきの場としての成果は大きかったと感じた。

□今後の住民会議の持ち方（運営方法）について

- 90分と決めて時間通りに進めたので参加しやすかったと思う。ターゲットを誰にするかで曜日・時間帯の設定方法はかえる必要があると思うが、土日は子どもとの過ごすことも多いので平日の夜間に実施すると参加しやすいのかなと思った
- 1つのテーマで報告者が複数人いたため、時間が足りない感じもした。次回からは1つのテーマで1報告として意見交換の時間をしっかりもつ形がよいと感じた。
- 地域（各自治会）ごとに課題はちがうと思う。参加しやすい公民館で開催する方法もありだと思う。また、各地域の高齢者サロンや子育てサロンに参加する方々との意見交換のようなやり方も効果的と思う。
- 「住民会議」という名称は少し難しそうというイメージを与えるのかもしれない。参加しやすい・参加したくなるような名称に変えたほうが良いと思う
- 集まりの持ち方については、小規模の集まりをもちながら、参加者の意識を高め、機会をみて全体的な集まりをもつなど、参加者の主体性、意識を持たせる工夫も必要だと思う
- 今後のテーマについては、シングルマザー支援やノーマライゼーションの視点に支援に関することも是非取り上げてほしい。また、LGBTに関するテーマも是非必要だと思う。しかし、このテーマについてはいきなり全体的な集まりではなく、まずは小規模な集まりから取り上げていってもよいと思う
- 今回は福祉をテーマにしているが、地域の課題は福祉に限らず、教育や文化、環境問題など多岐にわたるため、今後は総合的に地域づくりについて議論できる場が必要だと思う。その方法の一つとして「はえばる大学」の取り組みとうまく並行して実施できれば効果的だと思う。

□住民会議の振り返り

- 「学びの場」ということで、いろんな視点での講義があり、勉強になった。
- 民生委員、自治会長、地域で活動している「現場の声」が聞けて、熱意が伝わってきた。地域を知るきっかけにもなった。
- 障がい者雇用や交通など、普段知る機会のないものもあり良かった。
- 上間先生の夜の子どもたちの話を聞いて、また自分の活動と合わせてみて、親から子どもに状況が連鎖していると感じた。
- 性教育、福祉教育、地域福祉、ボランティア、障がい者など、いろんなものについて、「子どもの頃から」という視点が大切だなと思った。
- 勝部さんの講演会では、社協がいろんな取り組みを行っていた。やってみたいと思ってもできない現状がある。勝部さんも大変だったと思うが、かたちにしている。実現させることが大切だなと思った。
- 特別講演会などはとてもよかった。しかし、それをそのまま南風原でできるとは限らない。自分たちの場合は・・・という視点で、沖縄型とか南風原型を考えて実行する必要がある。
- 住民会議を開催して終わりという感じがする。住民会議の結果の報告が必要。どんな内容だったかとか、どんな声があったかを、広く周知していくことで住民にこういう場があることも広められる。

□今後の住民会議の持ち方（運営方法）について

- 平日夜というのは、意外とよかったと思う。休日だと予定や子供の世話などで参加できない人も。夜の方が都合つきやすいと思う。また、こういう会の時は、託児が必要だと感じる。
- 今日のゆんたくカフェも、休日午前に行っているが平日の方が人が来たかもしれない。
- 一度来た人を逃がさない工夫が必要だと思う。住民会議 2 回目以降来なくなった人、もったいない。LINE 登録などしてもらい、情報提供していけば、講義内容変更のことも簡単に周知できる。
- 住民会議の内容を、もっと広く周知できないか。会の様子をビデオでとって公表するとか。
- 会の名前については、「我が事・丸ごと」という単語を使えないものか。せっかくこれを推進しているのだから。

→今後のテーマについては、住民会議参加者にアンケートなどで把握できないだろうか。

→地域住民の活動を発表するのはよかったと思うので、今後の内容についても、実際活動していることの発表などがいいと思う。

<1班 2班合同>

□福祉教育 学校との連携について

→福祉教育基本指針を社協で策定し、それに基づいて福祉教育を推進しているが、どの程度進められているだろうか。

→学校は教育要領に基づいて福祉教育を行っている。学校での福祉教育のあと、地域や家庭でやってほしいことなど、役割を共有して、総合的に福祉教育とその実践につなげる必要がある。

→福祉教育連絡会が、ただの実施報告に終わっている。

<1班 2班合同>

□地域福祉圏域のイメージ図について（第1層から第3層の図、地域福祉プラットフォーム）

→第3層の老人会、青年会、女性会、子ども会は、一つの枠などでくくった方がいいと思う。

→このイメージ図に「学校」が入っていない。第2層あたりに入ってくるのではないか。

→「学びの場」が第2層のところで町全体の学びの場になっているが、自治会などの小さな地域向けの学びの場も必要と感じる。